

千歳のおいたち

展示の3つ目の柱は、時間の経過によって変化する地形や古代の人々が使った道具類を紹介することです。このコーナーでは、千歳の自然や歴史の流れを視覚的に学ぶことができます。

ここでは、千歳が海だったころのようすや支笏湖ができるまでの過程、火山灰によって形づくられた千歳の地層など自然の歴史を中心にパネルで紹介しています。また、長都地区の遺跡から発見された約2万年前の実物の木材を展示しています。



↑わらびてとう蕨手刀。刀の名前は柄の形が山菜のワラビに似ていることに由来します。この種の刀は、1,300年ほど前の東北地方の遺跡からたくさん発見されており、古代の北海道と東北の交流を示す大切な資料です。

文化財 まるかじり

↓長都のうつりかわりの展示コーナー。旧長都小中学校など長都地区の歴史がわかります。



↑千歳のおいたちの展示コーナー。床の線は、古代の住居の形を示しています。

つぎに、千歳でもっとも古い約2万年前の旧石器時代に使われた黒曜石の石器やその後の時代となる縄文時代から擦文時代までの土器を展示しています。13世紀ころになると東北地方との交易により鉄鍋や漆器が伝わると

もに、アイヌ文化が始まったといわれています。ここでは、アイヌ文化の道具として使われた吊り耳のある鉄鍋や漆椀などを展示しています。

長都のうつりかわり

展示の最後の柱は、埋蔵文化財センターのある長都地区について地域のうつりかわりや閉校した長都小中学校を紹介することです。

地域の方が親しみや懐かしさを感じるができるよう、長都地区の歴史をパネルなどでわかりやすく紹介しています。また、タイムカプセルなど長都小中学校にかかわりのある物を展示しています。

←べんざいてんみすし弁財天御厨子。長都の釜加神社にまつられています。背面には「千歳」の地名の由来が書かれています。複製品を展示しています。



金曜日、第2日曜日)

※団体見学をご希望の方は、見学希望日の3日前までにお申し込みください。